

中部の

エネルギーを 築いた

人々

わが国初の町営電気事業の創設者 橋本幸八郎

日本の電気事業は戦前民営主導で進められ発展してきた。このような動きの中で、大正から昭和初期の時代にかけて、町村営電気事業が全国各地で設立され、地方の電化を促進させた。この数は、電力国家管理が始まる直前の1937(昭和12)年では65自治体、88町村に達した。その先駆けとなったのは、1908(明治41)年に開業した岐阜県明知町営電気事業である。

今月号は明知町営電気事業の経営によって町財政の基盤を作り、地方自治、教育、産業開発など他分野にわたり活躍した初代明知町長の橋本幸八郎を紹介する。

なお、現在恵那市明智町は、大正村が知られており、かつては三河から信州へ塩や織物を運んだ南北街道と飯田から尾張へ繭や薪を運んだ中馬街道脇道が出会う宿場町で、明治時代は製糸業や製陶業が栄えた。また、明知と明智の言葉が異なるので、その違いを参考に後述した。



橋本幸八郎(1851~1930)
(出典：明智町誌)

橋本幸八郎の生涯

1 生い立ち

1851(嘉永4)年、岐阜県土岐郡柿野村の林音三郎の長男として生まれ、1873(明治6)年に13代橋本幸八郎の養子となった。

橋本家は味噌溜醸造業、質屋、銅鉄売買業を営み庄屋などを勤める家柄であった。先代は東濃に製糸業を興そうと考え、新式の汽缶型糸繰鍋を造って50人繰りを始め、繰雪舎と名付け糸を横浜に出荷した。また、独自に養蚕の伝習所を開設して地元の青年子女に習わせた。

さらに産業の発展には金融が必要であることを痛感して地元の有志と図って資金5万円を集め濃明会社を設立、初代社長に就任した。

14代幸八郎は1886(明治19)年に家督を引継ぎ、幸八郎を襲名した。その後、明知村

は1889(明治22)年に町村制が施行され明知町になった。当時の様子は戸数570戸、人口2,700人余、住民の多くが商工業に従事し、産業は製糸業、製陶業が主流で、また農業の副業として養鯉が盛んであった。

2 町政への貢献

政界活動は1890(明治23)年に県会議員に当選、明治30年に大地主県会議員・知事特選郡参事会員、1905(明治38)年から1916(大正5)年まで初代明知町長として町政に当たり、この地方の発展と生活向上に貢献した。主な業績を列挙すると次の通りである。

(1) 基本財産となった町有林の維持管理

町の基本財産は山林原野などであり、共有山林を分割して使用することを説得し町有林の維持運営に当たった。これにより生じた利

益を町費や町営電気事業の建設費に充当した。

(2) 小学校の改築、開道講、明知病院などへの功績

- ①明知小学校の改築 — 学校教育の将来を考え、就学児童の推進と義務教育の年限延長による小学校の改築と同時に教員住宅も建てた。
- ②開道講や瑞浪駅の設置 — 産業を興すにはまず道路改修にあるとして開道講を作って、その益金1,240円余を中馬街道改修補助費として寄付し、名古屋～明知間の連絡路線を改修し交通の便利を図った。また、中央線瑞浪駅の設置に尽力した。
- ③明知病院の設立 — 私立明知病院を設立し僻地でも西洋医術の治療が受けられるようにした。続いて私立衛生会を組織し衛生思想の普及に努めた。
- ④濃明銀行に改組 — 養父が創立した金融、生糸を扱う濃明会社を濃明銀行とし、初代頭取に就任した。

このほか勤儉貯蓄の方法として1円講社、製糸によるさなぎと鯉とを結びつけた養鯉を推奨した。

3 町営電気事業の創設者

当初1902(明治35)年に三河電力株式会社(本社：岡崎市)が明知町内に水力発電所を建設する計画であったが、なかなか進展させなかった。このため地元の製糸、製陶業者などが電力導入を希望したいということから町営事業で発電所建設が進められた。橋本町長の町会における事業計画の提案理由は「人口の増加につれて石油の需要が増えるとともに、生糸製造などの機械運転用薪炭の欠乏が予想され、放置すれば燃料不足によって事業の発展が阻害される恐れがある。また、近村でも陶土粉碎に動力が必要となる見込み

である。町内には水力発電の適地があるので、町営の電気事業を興して町の福利を増進したい」という説明であった。

事業費27,000円は、当時の町財政規模の2.5倍強であったが全て基本財産の処分によって賄われた。事業は順調で毎年3,000～4,000円を町費に繰り入れることができ、「人民に賦課せずして電気事業はもちろん、学校の新築を容易にし、かつ町基本財産は電気事業によって潤すことになり、初期の目的を達成した。また、電灯の点灯によって夜業の際の石油ランプによる火災の危険と油煙による生糸の汚れがなくなり、帝国唯一の輸出品たる生糸の品位を高めることができた。」と言われる。このような顕著な成功が全国各地の町村に電気事業を生み出す契機となった。

なお、発電所の概要は次の通りであり、戦後、中部電力に継承されたが、老朽化や集中豪雨により損傷を受け廃止された。

① 矢伏(第一)発電所

第一発電所は、明智川の上流矢伏地点に1908年に建設され、人造石の堰堤を設け約60m導水、落差30m、出力50kWの水路式発電所で、1968年に老朽化により廃止された。

② 三濃(第二)発電所

第二発電所は1930年に無人の自動式発



当時の矢伏(第一)発電所



完成時の三濃(第二)発電所

電所として建設。矢伏発電所下から取水、約850m導水、落差30m、出力60kWで、1975年の集中豪雨により廃止された。



建物が残っている静波(第三)発電所

③ 静波(第三)発電所

第三発電所は戦時下の1943年に明智川支流高波川に建設され、約800m導水、落差30m、出力82kWで、1977年の集中豪雨により廃止された。

明知町営電気事業の発電所

| 発電所名 | 矢伏(第一)発電所 | 三濃(第二)発電所 | 静波(第三)発電所 |
|---------|------------|------------|------------|
| 出力(kW) | 50-65 | 60 | 82 |
| 運転開始年 | 1908(明治41) | 1930(昭和5) | 1943(昭和18) |
| 廃止年 | 1968(昭和43) | 1975(昭和50) | 1977(昭和52) |
| 有効落差(m) | 30.3 | 30.7 | 30 |
| 所在地 | 明知町矢伏 | 明知町横通向平 | 明知町東方 |

なお、多彩な彼の略歴は次の通りである。

橋本幸八郎の略歴

| 西暦 | 和歴 | 履歴 |
|------|------|-------------------------------|
| 1851 | 嘉永4 | 岐阜県土岐郡柿野、林音三郎の長男として生まれる |
| 1873 | 明治6 | 13代・林幸八郎の養子となる |
| 1886 | 明治19 | 家督を譲り受け、14代・林幸八郎を襲名 |
| 1890 | 明治23 | 岐阜県会議員に当選 |
| 1897 | 明治30 | 濃明銀行初代頭取に就任 |
| 1905 | 明治38 | 明知町長に当選、1914(大正3)まで勤めた |
| 1908 | 明治41 | わが国初の明知町営電気事業開業、矢伏(第一)発電所運転開始 |
| 1930 | 昭和5 | 死去 |

